

# 経営比較分析表

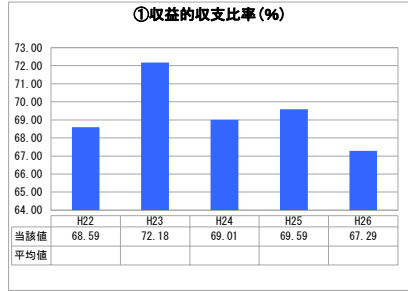
福岡県 筑後市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	31.56	87.19

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
49,146	41.78	1,176.30
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
15,453	4.18	3,696.89

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



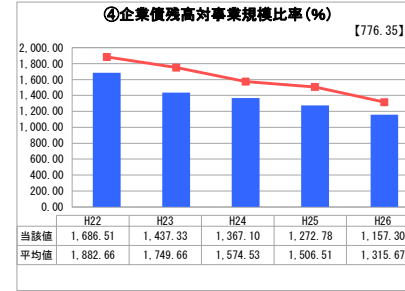
「単年度の収支」



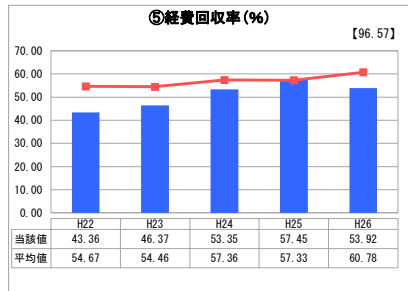
「累積欠損」



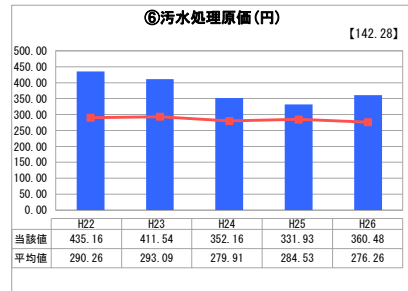
「支払能力」



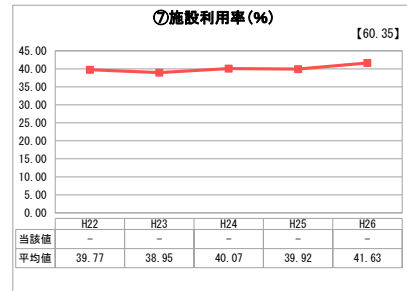
「債務残高」



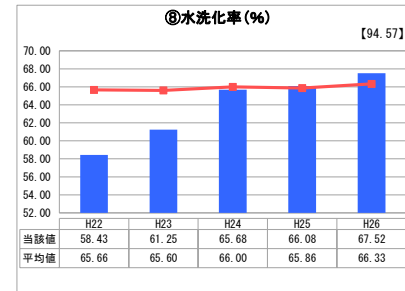
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

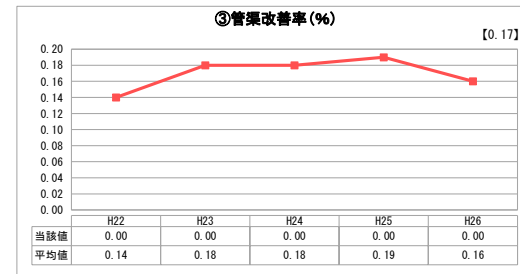
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

平成10年に事業着手、平成18年10月に一部供用を開始し、下水道普及率は現在31.56%と未だ整備途上の段階にある。  
このため、接続率も低く、使用料収入も脆弱で、起債や一般会計繰入金等の他の財源への依存が高い状況にあり、収益的収支比率や経費回収率も低く、単年度収支は赤字である。  
一方、料金収入に対する企業債残高の比率は類似団体平均を下回り、減少傾向で推移しており、建設投資の規模は概ね適切と思われる。  
また、汚水処理原価は、接続率が低く、有収水量がまだ少ない状況にあり、全国平均、類似団体平均を大きく上回り、汚水処理のコストは非常に高額となっている。  
以上の状況から、本市の事業は整備過程にあって、健全性、効率性は低いと言わざるをえない。

### 2. 老朽化の状況について

平成10年から事業開始し、管渠の耐震化、更新については、現段階では構造的に問題はなく、今後10年は実施しない予定である。

### 全体総括

整備途上において、建設投資に多額の費用を要するものの、その財源となる使用料収入は脆弱で、使用料収入以外の収入に多くを依存する、経営としては厳しい状況にあると言わざるを得ない。  
今後も整備事業を進めていく上では、整備効率の高い地区を検証しながら計画実施していく必要がある。これに加え、整備後の接続促進への取り組みにより、有収水量を増やし、使用料収入の増加させることが、経営の健全化、効率化を図るうえでは欠かせない。多額の費用を伴う下水道への接続は敬遠され、使用料収入が伸び悩んでいる状況が課題としてあり、これを解消するためには、供用開始区域への地元説明会、下水道展の開催や各種イベントへの参加による下水道事業の周知、未接続世帯への接続推進活動、排水設備設置補助金の制度周知等、下水道事業への住民の方々の理解を広め、接続率向上への取り組みが必要である。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。